

第二部 復活の曙光

第一章 洋書輸入の再開

一 洋書輸入の窓を求めて

日華事変勃発後における貿易統制から洋書輸入が制限され、昭和十四年第二次世界大戦開始以来ヨーロッパからの書籍輸入は益々困難になっていったことは、すでに前編で記したところである。米国からの書籍の輸入もまたこのような情勢に異ならず、昭和十六年夏以降は貿易を通じては不可能であった。昭和十六年五月、当社は自然科学書を中心に経済学書等を輸入すべく、マグロー・ヒル出版部に対して厖大な量の書籍を電報で注文したのであったが、それは米国務省の輸出自粛の勧告で実現できなかった。この間の事情を Roger Burlingame は次のように述べている。

一九四一年五月、東京から電報による科学技術書の注文が大量にあった。マグローヒル出版部は長年にわたって日本の丸善と取引があったのである。その前年までは、マグローヒル社と丸善との取引は政府のあずかり知らぬところだった。だが、四一年五月にはいと、国務省はその態度を変えた。変更の動機となったのは、日本の奇襲をおそれたからではない。政府が日本の野心を察知して、事前に手を打とうとしたのである。電報の内容は「シベリア經由による圖書輸入が困難なため、アメリカの圖書の特別輸入許可を得たい」というもので、数十万冊にのぼる本を発注してきたのだが、ワシントンはその輸出の自粛を勧告してきた。……この事件はアメリカのテキストブックやハンドブックがわれわれ自身にとっても、敵国にとってもいかに重要なものであったかを示すものだろう」（日本ユニ・エージェンシー発行『Foreign Publication News』一九七〇年十月二十七日発行 第一〇八号所載「果てしなき世界への挑戦—マグローヒル社物語」第三五回による）

かようにして、書籍輸入の途が絶えて約十年、その間における英・米の科学の進歩、世界の社会・経済・政治の実情を知りたいとの我が邦各界の要望に応え、一日も早く洋書輸入の途を開くことが、当社の使命であり再生の途であることを痛感していた。

であるから、昭和二十年八月三十日、ダグラス・マッカーサー連合軍総司令官が厚木飛行場に来着し、日比谷の第一生命館が連合軍総司令部の本拠と決定すると、幾許もなく、社員石川実、田中芳之に同部を訪問させた。九月二十六日であった。石川、田中は第一生命館に至って用件を伝えたところ、更に丸ビル裏の大きなビル（郵船ビル？）に回され、そこで担当官の Dr. Smith の部屋へ、日本の軍人とは全く異なった平民的な態度で案内された。

入って見ると机の上に Bradford Smith と書いた名札がおかれていた。同氏は戦前日本で大学の教師をしていたこともあり、其の著“*To the Mountain*”, “*Handbook of English and American Literature, 1936*”は当社でも可成り売れたこともあって、米国書輸入再開をよく了解してくれ、出来る限りの便宜をはかると好意を示してくれた。そこで石川、田中の両名は「米国出版業者の代表であるニューヨークの Snyder & Co. に丸善は健在であること、米国書の輸入再開をできるだけ早く実現するよう協力して欲しい」と望んでいることを打電して欲しいと話す、心快く引き受けて案文の作成まで協力してくれ、GHQとして厚木から打電することを引き受けてくれた。当時は厚木では軍用以外の電報は一切許可されていないので依頼の電報は打てないが、時期を待つようにと同氏からの電話があったのは、それから二、三日後であった。二人が訪ねたのは、後に明らかになったのだが、民間情報教育部(CIE)であった。当社としては、その後も連絡を断たないように心掛けた。少し経って、再び同部へ社員が行ったときには係りは Mr. John Brown に代っていた。

CIEとしても、日本国内の洋書輸入の希望が極めて強いことを次第に認めるようになったが、しかし占領政策は、まだ、洋書の輸入を許可するまでにはなっていなかった。

このような中で、当社は昭和二十一年八月二十八日、海外出版物の輸入促進とその取り扱いに関して、次の措置を取ることを決めた。

- 一 海外関係(旧海外課)の事務監督は八田取締役役に委嘱すること
- 一 海外出版物輸入準備委員会を置き、左の機構を以て之が運営に当ること

委員長 八田庄治

委員 伊藤四良 中村春太郎 杉健 井野礼二 西土春次 柘植福太郎 八木佐吉 桜井喜代志
幹事 田中芳之 小沢靖郎 田辺寛

このように、体勢が整うとともに、その活動も、一步一步具体的になって行った。

当社ではまず、努めて戦争中諸外国で発行された図書のリスト作製を企てた。たまたま昭和二十年十月二十六日、日比谷の東宝の隣（現三井銀行の隣）にCIEの図書館が開設された。同館にはアメリカ発行の図書のカタログなども来ていたから、当社では、まだ業務も閑散であったので、社員が交代に同館に赴いて“Publishers' Weekly”その他から米国図書のカタログを作成した。他日、洋書の輸入が許可になる日のための準備作業で、田辺寛や田中芳之が中心となってやった仕事であった。

CIE図書館でも、このような努力を理解して、遂には資料も貸し出してくれ、また新刊書の到着した場合にはそれを報らせてくれるようになった。こうして作った目録は、洋書輸入の緒をつくるためにも、また、その道が開けてからも大層役に立った。

このような仕事をしているうちに、CIEの担当官は Mr. John Brown から Mr. Don Brown に替った。Mr. Don Brown の時代は比較的にながく、いろいろ便宜を得た。同氏はその後も日本に滞在し、時々売場へも見えていた。

さて、当社では、何とか洋書輸入の途を開きたいと、各方面にはたらきかけていたが、昭和二十二年四月、民主外

交協会が組織された。その会長が当社の永い間の得意である森戸辰男氏であるといふので、洋書輸入に助力を懇願したところ、ユネスコの力も借りてGHQを動かそうということになり、この協会の専務理事広瀬氏の尽力で、同協会内に海外出版物輸入促進委員会を設け、杉森孝次郎委員長自ら“Petition for Importation for Overseas's Publication”と題した英文請願書を起草し、同氏の署名で昭和二十二年十月二十七日、バリの本部と、当時開会されていたメキシコ大会の両方に対し Dr. Julian Huxley, Directeur Général UNESCO 宛に発送した。然し返事はなく、どんな効果があったかは明らかではない。

また、嵯峨根遼吉東京大学教授を煩わし、日本學術振興会の會議に石川実を派遣し、洋書輸入促進について助力を請うたこともあった。同教授はGHQの Mr. H. C. Kelly と關係があつたので、洋書輸入について問い合わせてくれた。Mr. Kelly は、ユーロア資金 (EROA Fund) で買う運動をしてはどうかとヒントを与えてくれた。

いろいろ運動をしているうちにGHQでは独占企業禁止の意向があることが明らかになった。そこで同業者が結束して輸入の促進を計ろうということになり、海外出版物輸入同業会の理事・会員に参集を求めて昭和二十一年七月十一日、当時の京橋区中橋に在ったある焼けビルの二階で會議を開いた。まだ落ち着かない社会情勢の中であつたので、丸善、南江堂、三省堂、三越、教文館、国際書房、福本書院、金原商店、山川商会の九社のみ集つた。腰掛もない部屋で協議の結果、戦前の輸入同業者を再編成し役員を改選して、全会員一致協力して洋書輸入再開の運動をなす事を決議した。そして、先ず第一に貿易庁とGHQに洋書輸入許可の陳情書を提出することとした。当日、選ばれた役員は次の通りである。

常任理事 丸善株式会社

理事 教文館

理事 福本書院

理事 国際書房

偶、翌八月六日の「日本経済新聞」に貿易庁が、「GHQから国内不足物資で民意によって要請されているものの輸入申請を提出するよう」指令されたという記事が載ったので、理事会員一同で貿易庁に赴き相談した。そのときの注意で会の名を海外出版物輸入協会と変更することとした。その結果、協会は八月二十一日、貿易庁から正式に洋書輸入代行機関として認可された。

当時の貿易は一切政府間貿易で民間貿易は許されて居らず、公団所属の協会若くは組合が政府の輸入代行機関として、輸入業務を行うこととなっていた。

海外出版物輸入協会は、雑貨輸入公団の下部組織で、事務所を京橋に置いた。雑貨輸入公団の担当官は、のちに日本出版貿易株式会社専務となった井出一氏であった。海外出版物輸入協会の事務を遂行する要員は、経験豊富という理由から当社から出すこととなり、本社の田中芳之、田辺寛を同公団嘱託として出向させた。両名で出版物輸入に必要な事務一切を行った。後に米国から国立国会図書館への第一回寄贈図書も、横浜の第八軍へ両名で赴き受領した。

協会が正式に発足してから、改めて前出昭和二十一年八月六日の「日本経済新聞」の記事の真意を確めた上で、

同年九月十八日第一回の洋書輸入申請書を貿易庁に提出した。これは協会の要望で当社が、本・支店を通じて全国の各学校から注文書を受けて纏めたもので、数量は非常に多く、全部で三二、七三三冊にも達したが、内容は第二次世界大戦前刊行のものが多かった。結局、この申請は何ら実質的效果はなかった。

協会としては、その後も申請を繰り返すとともに、この年十月三十日には、協会理事連署の洋書輸入懇請書をGHQに提出し、洋書輸入促進方を依頼した。

GHQへ懇請書を出すについても、学者・知識人・関係財界の支援を得た方がよいというので、当社は、昭和十一年十二月、従来の洋書輸入運動の経過とその困難の理由を略述し、民間情報教育部長 Mr. Nugent 及び経済科学部長 Mr. McDermott 宛の懇請書を前記各方面の人々に送り署名を依頼した。

Lieut. Col. D. R. Nugent,
Chief, C. I. E., G. H. Q.,

TOKYO

Sir,

Petition for Importation of American Publications

The long isolation from American culture has made us feel an acute intellectual famine. We are indeed longing for American books and magazines as they are quiet essential for our studies and researches. It should also be of utmost and most urgent necessity to have American publications available to our people in general in order

to fill their mental vacancy and to accomplish genuine democratization of our country.

We earnestly entreat your kind permission for the importation of American publications.

Yours respectfully,

(Mr. P. A. McDermott に対するものも同文)

この懇請に応えて送られた署名を纏めて、昭和二十二年二月十二日にGHQの担当の部に提出した。経済科学部長の Mr. McDermott に宛てた懇請書は、三三頁 九、〇〇〇点で署名数九四名、Mr. Nugent に宛てた懇請書は、三五頁 九、一〇〇余点で署名数九五一名であった。

以上のようにGHQに提出した懇請書、若くは貿易庁への申請書に附した輸入希望書のリストは、当社の田辺寛や田中芳之らがCIE図書館に通って作成したリストや、本支店を通して募った輸入希望書のリストによって作成したものであった。また昭和二十二年三月には Medicine 関係五〇タイトルと Technical Science 関係一〇〇タイトルのカタログを作成して本支店に配付して、関係方面の希望を尋ねさせていた。これはこの章の初めに記したように、戦争中における各国の医・薬学、工業技術関係の進歩の大であったことを知り、それらが荒廃した日本の再建にまず必要と考えたからであった。

二 米国出版業者の来朝

いろいろ努力しては見たが、事態は一向に進展しなかった。そのような時に、昭和二十一年十一月、雑誌“Colliers”の代表者 Captain J. F. Carroll が来日した。この時本社支配人中山良謙に、“Collier's Weekly”の Sale Agent を引き受けないかという話があり、それを承諾したところ、保証金を入れよというのが National City Bank of New York の東京支店へ八、二四〇円五〇銭を供託した。この供託によって、翌年十二月に、第一回の“Collier's”が入荷した。供託してから丸一年かかったわけである。これについてはのちに補記しよう。

昭和二十二年四月十八日に“Publishers' Weekly”の出版社である R. R. Bowker Co. の Daniel Melcher 社長が The Publishers' Association の代表として来日した。この人は小僧さんから叩き上げた人で、米国切ったの書物通であり、自ら“Publishers' Weekly”を創刊したり、出版物のカタログを編集出版したりしていた。著書に“So You Want to Get into Book Publishing: The jobs, the pay and how to start. 1964”“Printing & Promotion Handbook. 1966”などもある。

Mr. Melcher を迎えて、その日、即ち四月十八日に一席を設けて海外出版物輸入協会会員と会談した。Mr. Don Brown も同席した。通訳には教文館の殖粟文夫があたった。この時の話で、戦後における米国の出版事情もわれわれの想像とは可成り異なり、用紙の不足によって極めて窮屈で、日本にまで輸出する余裕はまだないことを知らされた。同氏は日本へ書籍が輸出されるようになれば Snyder 社の代表が来日するだろうとも話した。他の伝える

ところでは、米国は戦時中戦地の兵士に送るため膨大な数のポケット型のペーパーバックの G. I. Library を出版したため紙の使用量も多く、またフィリップン、印度、中国等アジア諸国からの要求にも応じなければならぬので、この時点では日本への書物を輸出するまでの余裕はなかったとのことであった。同氏は、日本出版協会においても米国の出版事情を説明、またアメリカに於ける読書週間について同協会役員等に熱心に語った。戦後日本に於て読書週間が行われるようになったのは同氏の勧めによるものである。また翻訳出版についても関係者と話し合い、Mr. Don Brown の斡旋で占領期間中の早い時期に出版業者が入札で翻訳権をとり、翻訳出版が可能になったのも同氏に負うところが多かった。当社の石川実が“Publishers' Weekly”を見るために毎日 C I E 図書館へ通っていることを話したところ、それでは、同誌を一冊宛寄贈しようと、帰米後同氏の歿時まで毎号寄贈された。おかげで、米国の出版事情をよく知ることを得て、米国書輸入の申請などに非常な便利を得た。

同氏の来日の目的は、日本経済の立ち直りの程度、米国出版物の市場としての日本の状況、G H Q の対日政策等の視察のためであった。

昭和二十三年四月になって、世界的に知られるニューヨークの出版社 McGraw-Hill から代表として Mr. Jesup が来日、通産省次官や G H Q の関係者等に会って、米国書輸入にまつわる諸般の事情をきき、同社の今後の方針の参考にもしたようであるが、この人は昭和二十五年の民間貿易再開後まで滞在して、C I E プランによる同社出版書の輸入についても種々便宜を計ってくれた。

同年八月に、先に Mr. Melcher から話のあったニューヨークの Henry M. Snyder & Co. の代表者として

Miss Barbara A. Steel が来日し、海外出版物輸入協会の会員とも会談、通産省やCIE等を訪問し米国書輸入に就いての問題点などを聞いたのだと同時に、日本への洋書輸入を早く許可するよう尽力してくれた。因に同社社長 Mr. Henry M. Snyder は、米国各出版社の輸出代理業務の創始者ともいべき人で、わが国へも早くから米国書を紹介した先駆者である。

この両人の来日前後から米国の輸出態勢もほぼ整い、またGHQ内部にも洋書輸入許可の気運が熟しつつあった。すなわちこれらの米国出版業界の人々が来日したことは、洋書輸入の上に大いに効果があったことはいうまでもない。

三 洋書輸入の途開く

既記のように、頼れるものなら薬でもつかむというように、いろいろ努力を繰り返している間に、昭和二十一年八月、進駐軍の放出米国雑誌約七〇万冊（現品神戸に保存）を、学徒に配給したいと、進駐軍から文部省へ申入れてきた。同省はその外郭団体である財団法人勤労学徒援護会を通じて当社にこれを取り扱う意志があるかどうかを聞き合せてきた。当社としては、取り扱い洋書の少ない折柄でもあり、九月一日、田中芳之を神戸に派して現品を調べさせた。田中の調べた所では当社として扱うべき書物ではないと考えたが、洋書の手に入りにくい時期でもあったので、武者小路実篤主催の読書組合などとも相談の上で取り扱った。

昭和二十二年三月には、要望の民間の海外通信が許可されることになって、閉ざされた窓が開いた。翌月の四月

には“Life”が放出物資として入荷した。それは同年一月十八日号から三月頃までの一〇〇〇部で、一部十二円五十銭で売った。

同じ年の十一月、“Collier's”が横浜に着った。これは Army Cargo として GHQ に送られて来た。十一月十日に輸入許可が下りたが、それには General MacArthur のサインがあった。これを、横浜の税関に呈示すると即日通関してくれた。品物は十二月に受け取り、全部で一、五〇〇部を協会で分け、夫々一部七円五〇銭で店に出すと忽ち売切れになった。この“Collier's”が正式に入ってきた最初の雑誌であったが、これと同時に入荷したものに“Woman's Home Companion”(月刊 八〇〇部 一部十九円)、“American Magazine”(月刊 一、五〇〇部 一部十九円)があった。“Life”は、この時教文館で扱った。続いてアメリカで日本人二世が出していた「極東画報」(“Far East”)が入荷した(もっとも「極東画報」は一年ほどで廃刊になった)。

さて、この米国からの輸入雑誌の取り扱いについて疑問があったのか、昭和二十三年の初めに GHQ の ESS Anti-trust Cartel Section から、これら雑誌の輸入・配給について調査を受けた。この輸入配給の当事者は当社と教文館で、協会が何等の経済行為もしていないので問題はないと思っていたが、雑誌は専ら会員に配給されたということが分り、独占禁止法に触れるのではないかと疑念をもたれた。協会としては、その組織や実情を説明して調査官の納得を得たつもりであったが、おそらく充分の理解は得られなかったであろう。序でながら、GHQ の命令で同年八月十八日、通産省から事業者団体法施行規則によって、従来の政府の指定を取消して海外出版物輸入協会を閉鎖機関とし、経済行為を禁止する、今後は各社で直接輸入するようにとの命令を受けた。しかし協会とし

ては実質的影響がないので、相談の上、名称を海外出版物輸入同業組合と変更し、任意団体として再出発をすることにした。このように名称の変更はあったけれども実体は少しも変わらず、組合会員は、従前の通り協力して洋書輸入の実現に努力したことはいうまでもない。やがて、待望の洋書輸入が実現したのである。

すでに述べたように、洋書輸入促進運動は、連合軍の主導権が米国にあった関係から主として米国に対して行っていたが、当社としては他の諸国からの輸入も必要であると考え、協会の理事全員で英国大使館に Mr. Redman を訪問し、英国書輸入の斡旋を頼んだ。同氏は戦前永く我が国に滞在、一ツ橋の東京商科大学（現一橋大学）で教鞭をとっていた人であったから、その趣旨を了承、尽力することを承知してくれた。そして、その忠告通りに請願書を出しておいたところ、昭和二十三年十一月二十五日、同氏からかねての請願を了承し、英国使節団として英国書を外交行李で輸入し円払を許可するから、その第一回分として十二月十三日までに願書を出せとの通知があった。早天に慈雨の思いで協会メンバー中の希望者は願書締切日の十二月十三日までに、輸入申請を終了した。英国書については当社では up to date な目録などなかったので、焼け残りの紙で外注カードを作り、各支店より希望書を書き送らせ、本店においても古いリストから適当と考えるものを書き上げて、申請書を出した。あまり大した量でもなく、戦前発行のものが多かった。同時に申請した他店の分は少なく、大部分は当社の分であった。

この申請分の英国書は翌二十四年三月末に英国大使館に到着した旨通知があったので Mr. Redman に交渉、その承認を得て、同年四月一日から六日まで、本店において、戦後最初の「英国書展覧会」を開催して一般の参観に供し、終了後それぞれ注文主である協会のメンバーに引渡した。当時の military rate は一ポンド一、〇八〇円、



第一回英国書展覧会

米貨一ドル二七〇円であった。ただ急いで処理したために、この時の書物の詳細なリストはない。

第二回目の英国からの書籍は、同年十月入荷した。これは英国の書籍出版業者が選択して送ってきた書物が着いたのである。日本国への贈り物という意味で国立国会図書館へ寄贈されることに予定されていた。このとき代表として来日した出版業者は次の諸社で、同国出版界で重きをなしていたオックスフォード大学出版部のジョン・ブラウンが団長であった。十一月四日、協会の理事と懇談会を開催、忌憚のない意見を交換して、爾後の取引増進に努力し合うことを申合せた。

Oxford University Press—John Brown

Pergamon Press Ltd.—C. T. Clark

André Deutsch Ltd.—André Deutsch

Cambridge University Press—Colin Eccleshare

Jonathan Cape Ltd.—Graham C. Green

Heinemann Educational Books Ltd.—Alan Hill

Longmans, Green & Co. Ltd.—John Chapple

Hutchinson & Co. Ltd.—Robert Lusly

Paternoster Press—B. Howard Mudditt

The Bodley Head Ltd.—Max Reinhardt
The Bracken House Group—J. A. Rivers
Thames & Hudson Ltd.—T. G. Rosenthal

当社が、昭和二十一年の半ばから、日本學術振興会・工業技術庁の応援・助力のもとに、とくに自然科学・技術・工業関係の米国書輸入に奔走した次第はすでに記した通りであるが、その運動が効を奏してか或いは英国大使館の動きに刺激されてか、昭和二十四年二月十一日に通産省から EROA Fund による工業技術関係の米国書輸入許可の発表があった。

協会では、右のような過程で、兼重工業技術庁長官の指導に従って各大学の自然科学系研究所、各種技術研究所並に試験所、工業関係会社等からの購入希望書リストを作成して、申請書と共に工業技術庁に提出した。工業技術庁は、これを取り纏めて昭和二十四年三月二十四日に GHQ に提出した。従ってこの申請に基づく書籍が GHQ の手によって、同年八月、横浜に入港したとき、通産省は輸入配給の事務担当者を公募した。当社を含め六社が応募したが、他の五社の好意ある辞退によって当社が通関・引取・配給・代金回収、そして事務処理後の invoice (仕切り状) 三通の作製、GHQ への提出、代金を公団に納入するまでの一切の事務を処理した。当時の military rate は一ドル三六〇円であった。このときの輸入書籍の総数は二、七五四冊、三〇七タイトル、総額一四、〇四六ドルであった。売価・手数料についても工業技術庁、GHQ、通産省の承認を得なければならず、何もかも初経験で、手数煩雑さにひどく苦労した。

その内、当社で販売したものは次の表の如くであった。

EROA Fund によって入荷した当社取扱い自然科学書

Type	(No. of Copies Distr'd	(Unit List-Price	Amount
Adsorption	1	4.10	4.10
Advanced Electrical Measurements	2	3.28	6.56
Adv. Mathematics for Engineers	1	3.90	3.90
Adv. Mechanics of Materials	3	3.44	10.32
Adv. Refrigeration & Air Conditioning	1	3.51	3.51
Advances in Applied Mechanics	7	5.44	38.08
Adv. in Electronics	3	7.20	21.60
Aerial Photographs in Forestry	3	5.15	15.45
American Potato Yearbook	2	2.25	4.50
Bibliography on Cutting of Metals	5	5.58	27.90
Breeding & Improvement of Farm Animals	2	4.40	8.80
Capacitors: Their use in electronic circuits	3	2.31	6.93
Catalytic Chemistry	1	5.10	5.10
Chemical Engineer's Handbook	1	9.10	9.10
Chemistry of Portland Cement	2	8.00	16.00
Chemistry of the Silicons	2	2.14	4.28
Coal	2	5.07	10.14

Commercial Fertilizer	1	3.85	3.85
Commercial Standards	1	9.00	9.00
Communicable Disease Control	15	4.10	61.50
Controllers for Electric Motors	1	3.25	3.25
Copper Base Alloys	1	4.85	4.85
Cost Control in Logging Industry	2	3.65	7.30
Crop Production	1	4.715	4.715
Dairy Cattle & Milk Production	1	4.10	4.10
Data Book for Civil Engineers	2	14.62	29.24
Design of Concrete Structures	1	5.70	5.70
<i>Ibid.</i> Tables & Diagrams (Tables only)	2	0.70	1.40
Die Design & Die Making Practice	2	4.80	9.60
Drainage & Flood-control Engineering	5	3.60	18.00
Drying & Dehydration of Foods	2	4.00	8.00
Electrical Network Calculation	3	4.43	13.29
Electrical Transmission & Distribution Reference Book	2	4.99	9.98
Electrodynamics	2	5.33	10.66
Electromagnetic Waves	3	5.78	17.34
Electromagnetism	1	2.64	2.64
Electromechanical Transducers & Wave Filters	4	4.62	18.48
Electron Microscope	4	4.00	16.00
Electronic Circuits & Tubes	3	6.08	18.24
Elementary Structural Engineering	1	3.23	3.23

Elements of Engineering Geology. 2nd ed.	1	4.29	4.29
Elements of Hydraulic Engineering	1	2.87	2.87
Elements of Nomography	2	2.64	5.28
Engineering of Dams	1	12.87	12.87
Engineering Organization & Methods	10	3.18	31.80
Essentials of Food Preparation	2	2.58	5.16
Experimental Plastics & Synthetic Resin	3	2.75	8.25
Factors of Soil Formation	1	2.83	2.83
Fireproof Construction	1	3.69	3.69
Food Products	1	7.20	7.20
Formaldehyde	3	4.88	14.64
Foundations, Abutments & Footings	1	3.64	3.64
Foundations of Bridges & Buildings	1	4.45	4.45
Fundamentals of Automobile	1	3.13	3.13
Fundamentals Theory of Servomechanisms	2	2.12	4.24
Gears	2	6.29	12.58
Handbook of Plastics	3	15.50	46.50
Hardness & Hardness Measurement	3	6.43	19.29
Hydraulic Machinery	2	3.50	7.00
Hydraulics of Steady Flow in Open Channels	2	2.53	5.06
Industrial Applications of Infraredray	1	2.84	2.84
Industrial Electric Control	3	2.25	6.75
Industrial Electric Furnaces & Appliances	1	11.48	11.48

Injection Molding of Plastics	1	8.00	8.00
Jigs & Fixture for Mass Production	1	2.77	2.77
Klystron Tubes	5	2.84	14.20
Locomotive Encyclopedia of American Practice	1	6.85	6.85
Manual for Process Engineering Calculations	2	4.86	9.72
Manual of Standard Practice for Detailing Reinforced Concrete Structure	2	2.80	5.60
Mathematical Aids for Engineers	1	3.71	3.71
Mathematical Statistics	1	3.30	3.30
Mathematics for Radio Engineering	3	3.70	11.10
Mechanical Behavior of High Polymers	1	7.79	7.79
Mechanical Engineers Handbook	3	7.88	23.64
Mechanical Properties of Materials & Design	1	2.84	2.84
Metallurgy of Steel Casting	3	5.67	17.01
Milk and Dairy Products	1	4.20	4.20
Mining Engineer's Handbook	1	12.48	12.48
Modern Ultra- & Extreme-Short-Wave Reception	8	5.78	46.24
Molds, Yeast, Actinomycetes	1	3.90	3.90
National Directory of Commodity Specifications	1	2.25	2.25
National Metals Handbook	5	12.95	64.75
Network Analysis & Feedback Amplifier Design	7	5.78	40.46
Organic Chemistry with Applications in Pharmacy & Medicine	3	4.50	13.50

Organic Chemistry	1	12.48	12.48
Organic Synthesis Collective	1	5.46	5.46
Outline of the Amino Acid & Protein	1	3.90	3.90
Petroleum Production	1	15.25	15.25
Petroleum Production Engineering-Oil Field Development			
Phosphates & Superphosphates	1	5.66	5.66
Photoelectricity	3	5.74	17.22
Physics of Metals	2	12.97	25.94
Piezoelectricity	3	3.24	9.72
Piezoelectricity	5	7.15	35.75
Pile-Driving Handbook	1	4.07	4.07
Planning Industrial Structures	1	4.85	4.85
Planning of the Modern City	2	9.36	18.72
Plastic Mold Engineering	2	4.62	9.24
Plastics for Industrial Use	2	2.43	4.86
Powder Metallurgy	2	4.20	8.40
Principle of Food Freezing	1	2.95	2.95
Principle of Tool Engineering	1	2.28	2.28
Principles of Color & Color Mixing	5	3.37	16.85
Process Equipment Design	1	4.92	4.92
Proteins, Amino Acid & Peptides	1	10.53	10.53
Public Water Supply	5	5.07	25.35
Quartz Crystals for Electrical Circuits	7	5.39	37.73

Radio Amateur's Handbook	8	1.60	12.80
Radio Engineer's Handbook	7	5.65	39.55
Raising Fur Rabbits	2	2.85	5.70
Rarer Metals	1	4.50	4.50
Research in Industry	4	5.01	20.04
Rhombic Antenna Design	6	3.08	18.48
Sequential Analysis	1	3.12	3.12
Sewage Treatment	1	2.73	2.73
Sewage & Sewage Treatment	8	5.07	40.56
Sheep Breeding	1	1.80	1.80
Soil Mechanics in Engineering Practice	2	4.29	8.58
Soil Mechanics: Its principles & structural applications			
	1	4.45	4.45
Soil Physics	4	3.70	14.80
Standard Handbook for Electrical Engineers	2	9.55	19.10
Standard Method for the Examination of Water & Sewage			
	7	3.80	26.60
Standards (A. P. I.)	2	50.00	100.00
Standards (A. S. T. M.)	2	68.00	136.00
Stream Flow	1	3.51	3.51
Strength Metals under Combined Stresses	3	1.73	5.19
Structural Members & Connections	1	5.28	5.28
Testing & Inspection of Engineering Materials	4	3.99	15.96

Tables of the Bessel Function of the First Kind of Orders

Techniques of Statistical Analysis	2	34.40	68.80
Technology of Adhesives	3	4.79	14.37
Theoretical Soil Mechanics	2	6.24	12.48
Theory & Application of Electron Tubes	1	4.29	4.29
Theory & Application of Radio-Frequency Heating	7	4.39	30.73
Thermal Insulation of Buildings	7	5.01	35.07
Timber, Its Structure & Properties	1	1.60	1.60
Torque Converters	2	4.10	8.20
Transmission Lines, Antennas & Wave Guides	1	4.50	4.50
Treatment of Experimental Data	7	3.39	23.73
U. H. F. Radio Simplified	1	3.90	3.90
Ultra High Frequency Transmission & Radiation	5	2.78	13.90
Vacuum Tubes	7	3.51	24.57
Vegetable Fats & Oil	7	5.99	41.93
Very High Frequency Techniques	1	6.40	6.40
Wood Chemistry	7	11.19	78.33
Wood Handbook	2	8.00	16.00
Writing the Technical Report	2	0.75	1.50
Your City Tomorrow	5	2.79	13.95
	1	1.55	1.55
Total :	389		\$ 2,183.465

当社が取扱った分は、一四七タイトル 三八九冊 二、一八三・四六五ドルであった。

これよりさき、当社は、英国大使館の斡旋で英国書の輸入に成功すると、これに力を得てフランス書の輸入を実現しようと、昭和二十四年、年があけると早々、組合理事全員でフランス大使館を訪ね、参事官・文化部長 Mr. Chazelle に面会して、フランス書の輸入斡旋方を懇請した。初めはフランスには、その資金がない、英国のような手配は出来ないと受け入れられなかった。しかし倦まずに懇請を続け特別の配慮を願った結果、同年三月一日に至って、英国同様、外交使節団として輸入を斡旋しようとの申出があり、第一回の申込切は三月二十四日と定められた。そこで希望者は期日までに申請書を提出した。この分の書籍は同年五月末にフランス大使館に到着した。そこで当社では、その年五月三十日から六月十一日まで「新刊フランス書展」を開催した。日本橋の三越本店でも、フランス書展を同時に開催した。

右のように民間貿易が始まる前、英・仏両国が外交ルートによって書籍輸入の斡旋をするに至った情勢をも考慮して、GHQのCIEが民間貿易開始をまたず暫定的に米国書の輸入を許可することとなった。そして昭和二十五年三月十三日、通産省から GARIOA (Government Appropriations for Relief in Occupied Areas) Fund によって総額二〇万ドルの米国書輸入を許可すると発表した。このガリオア資金で取り寄せられる書籍は自然科学書を除いた人文科学関係書であった。これは政府貿易によるので、輸入業務代行者を希望業者の競争入札によって決定することとなった。これはCIEの命令で通産省はその指示に従って公示し、一切の監督にあたることとなった。



新刊フランス書展覧会

入札には、当社、国際書房および極東貿易が参加して、それぞれ見積明細書を提出したが、当時CIEおよび通産省の担当官は、洋書輸入業務が煩雑で、かつその手数や経費がいかにかかるものかを殆んど認識せず、安ければよいとの観点から極東貿易を指定した。

さて、右のように、CIEプランによる米図書輸入に就いて、一切を極東貿易に一任し、海外出版物輸入同業組合員各自が顧客からの予約書籍代金を同社に送付したに拘わらず、書籍の輸入がなかなか進まなかった。受注書のなかには雑誌などもあり、延び延びになっていく間に入手不能になる憂もあったので嚴重催促したところ、不祥の事実が明かになったので、同社をして左の陳謝状を発表することにした。

陳謝状

CIEプランに依る米図書輸入の件

弊社は連合軍最高司令部民間情報局の御計画による右米書の輸入に関し通商産業省の代行機関（総代理店）として一昨年四月以来取扱書店各位より御注文を受け、之が発注、輸入の業務に従事して参りましたところ入荷状態は頗る不規則且つ不円滑でありまして一年有半以上を経過して未だなお入荷せざるものすら多数あり延

引に延引を重ねて今日に到った実情であります。

此間書店各位よりは屢次嚴重な御督促、御照会を蒙り、これに対し本業務の特殊性と複雑なる手続を理由に屢々事実と反する回答を致し、殊に昨年三月に於ては六月末日迄の完納を御約束しましたが偶々政府会計年度の予算切替措置の為一部外国送金が遅延しましたので、これを理由に六月に到って九月末日の完納を確約申し上げ鋭意之が履行に努力致しました。

然るに最近に到り弊社事務処理の重大なる不始末より各位の御期待に背き御註文の未着分は今後入荷の見込なきことが判明致し終に監督当局の御指令に基き本業務を中止致すの止むなきに到りました事は真に慚愧に堪えません。

かゝる結果を招来致しました原因は全く弊社の事務上の不行届と適正ならざる処理の爲でありまして監督御当局並に書店各位、又需要者各位に多大の御迷惑を相掛けましたことを茲に衷心より陳謝致す次第であります。

昭和二十七年一月

極東貿易株式会社

専務取締役 浜田久蔵

常務取締役 福島京一

書籍部長 高野仁一郎

同社の失敗は、事務に不慣れのため、有効なる手続執行に時間を要したこともあったであろうし、その間に起きた経済変動に應ずる経済力にも難点があったようである。

とにかく、組合員として、とくに顧客からの予納代金を同社に托したのにとつては、重大な打撃であった。単に遅れているというのみでなく、注文書が売り切れのため入手不可能に陥っているものもあるかも知れないという不安もあった。そこで組合として顧客筋へ左のように事情を具して、猶予方をお願いしたのであった。

CIEプランによる米国書の輸入遅延について

曩に連合軍民間情報教育局のご計画による政府輸入の方式によってお引受け申上げました図書の入荷状況に就きましては爾来政府の代行機関たる極東貿易株式会社に対し促進方繁く折衝を重ねて参ったのでありますが不幸にして進捗の見るべきものなく遂に一年有半を経た今日同社の別紙陳謝状の如き始末と相成りましたことは誠に弊社と致しましても全く汗顔の至りでございまして唯々深くお詫び申上げる次第でございします

就きましては斯く同社がこゝに代行権を喪失致しました上は弊社と致しましての責務を果す方途として急速なるご下命品の入手こそ緊要事と存じまして勝手ながら既に民貿方式への切替え発註を了え鋭意完納を期して居る次第でございます

重ね／＼のご迷惑にて何共恐縮の外ございませんが何卒事情特にご諒恕を賜り枉げて今暫らくのご猶予を伏してお願ひ申上げる次第でございます。

かような次第で、当社の未調達分に対しては、陳謝状にあるように、すでに再開されていた民間貿易に切り換えて注文をし直す手配をした。

一方代行機関としての極東貿易は業務を停止したが、前納してあった代金の返済は不能となった。そこで監督官庁である通産省の監督不行届として、その返済を政府がすべきであるとして、通産省・大蔵省へ陳情、八方手を尽くした。その結果、通産省から前納金総額の支払を受けることが出来た。このために尽くした組合理事の努力は並でなかった。

四 待望の民間貿易開始

最初に、民間貿易開始前、昭和二十四年中、当社が苦勞して輸入した洋書の金額は左表の通りである。

(単位千円)

国別	上半期	下半期	計
米 国	九、〇〇〇	一〇、三四〇	一九、三四〇
英 国	一二、〇〇〇	一〇、七四八	二二、七四八
仏 国	三、〇〇〇	三、二五〇	六、二五〇
計	二四、〇〇〇	二四、三三八	四八、三三八

このうち、英・仏両国は大使館経由で、米国はGHQの放出によるものであった。米国からの輸入では、ニューヨークの The Macmillan Company, Henry M. Snyder & Company からの輸入が多かった。

さて、昭和二十四年十二月一日に、外国為替・外国貿易管理法と輸出貿易管理令が公布され、翌二十五年一月から民間貿易の開始を許可するという発表があった。

早速、通産省の担当官に洋書の民間貿易、とくに輸入開始の時期・方法に就いて照会したが、商品別に重点的に許可する方針というだけで詳細は明確ではなかった。間もなく、業者が輸入を必要とする書籍・定期刊行物の数量・金額を記し、輸入割当額を年四回に分ち、各期別に申請することとなった。いま、当時の洋書輸入業者の申請額総計と被割当額を記すると次表の通りである。

(ドル以下は切上げ)

期 別	申 請 額	割 当 額	割 当 率
第一四半期 (一―三月)	\$ 二三八、二〇七	\$ 一二八、〇〇〇	五四 %
第二四半期 (四―六月)	\$ 四四三、九四八	\$ 二五〇、〇六〇	五六 %
第三四半期 (七―九月)	\$ 五四二、一〇七	\$ 三二一、六六一	五九 %
第四四半期 (十―十二月)	\$ 八九四、五〇八	\$ 五八九、九一九	六六 %
計	二、一一八、七七〇	一、二八九、六四〇	六〇 %

当社が実際に受けた割当額は、右記の額の半分以上と考えてよいだろう。

さて、右のような事情が明らかになるとともに、当社は、昭和二十五年七月号の「アナウンスメント」におい

て、「外国書籍・雑誌の輸入状況に就て」と題した挨拶文を発表、民間貿易に移ったとはいえ、輸入手続の煩瑣、政府資金の隘路などから顧客の希望に充分に添い得ていないことを謝すると共に、発注経過を次のように報告している。

一～三期に於きましては英米書発註済 四～六期に於きましては英・米・西独・瑞西・西班牙等諸国書発註済 七～九期は目下申請中で御座いまして、英・米・仏・瑞典・瑞西・デンマーク・和蘭等許可あり次第発註の手筈になって居ります。

この時は、この年の第四半期分（十月～十二月）については、まだ何も判っていなかったのである。次に、昭和二十五年中のわが国における洋書輸入額と、その主要輸入先を挙げると、

（単位千円）

国別	金額	
	上半期	下半期
米 国	一一、二一三	三三、七〇七
英 国	一一、七二九	一九、四四五
仏 国	四、五七七	二、五九三
独 国		四、五三七
その他		四、五三九
計	二七、五一九	六四、八二一
		九二、三四〇

当時、通産省にあって、洋書輸入事務の衝に当たっていた平井福太郎通産事務官の「洋書輸入の回顧」〔学鐙〕昭和

和二十六年五月号)によれば、

(1) 各国別の輸入比率は、米国が五七・七%、英国が二三・四%、西ドイツが一四・二%、スイス一・一%、フランスが一・六%、その他二・〇%であり、その他の諸国中にはスペイン、スエーデン、デンマーク、オランダ、オーストリー、イタリーを含んでいる。

(2) 輸入洋書のうち、科学技術関係の金額が、一、五三四、三三一弗に上るのに、文科科学系の書が四一一、三一一弗である。これは日本国民が物質文明の立遅れを挽回しようとする意欲が強まっている証拠といえよう。全体的に概説して自然科学系書の輸入は米国が最も多く、つづいて英国・独逸であろうが、この分野では独逸が英国を凌駕すると予想される。

人文科学の分野では英・独・仏がつよい。英国はいうまでもなく、独・仏文化に対する日本国民の愛着は極めて強い。

右のように当時の洋書輸入の状況を説明した上で、最後に、戦争直後から昭和二十五年乃至二十六年上半期頃の我が国の洋書輸入業者について次のように記している。

昨年一月民貿開始より四―六期頃まではにわかに入業者が相当多くなっていたが、やって見てその繁雑にして入手の喰うことが解つて来て輸入を止めるものも生じ、漸次淘汰されて現在では、米国ものについては大体三四、英国ものについては二四、西独ものについては二七の程度に落着いて居るが、一国のみに限り専門に輸入に従事している者はなく、上記三国のもの以外の出版物をも兼ね輸入を扱って居るから、実際の外国書籍輸入

業者としては大約三四社位となる。

何と言ってもこの中で他を圧しているのは丸善であって、経営の規模、輸入範囲の広さは群を抜いている。戦後派で活潑なのは海外出版貿易KK、極東貿易KK図書部がある。その他特殊なものに力を注いでいるものとしては教文館（キリスト教及聖書もの、地域的にも仲々広い）国際書房（学術書）福本書院（哲学精神科学）ルベルト・エンデルレ書店（独乙もの）南江堂（医書）明治書房（各国の美術デザイン関係）山長商店（アクメコード専門）等々がある。